様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月　６日現在

機関番号：１１２０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００８～２０１２
課題番号：２０５２０６７６
研究課題名（和文）狩猟採集社会の定住・移動性と集団の空間的流動性に関する歴史地理学的研究
研究課題名（英文）Historical geographical study on the stability and fluid residential groupings among hunter-gatherers
研究代表者
遠藤　匡俊（ENDO　MASATOSHI）
岩手大学・教育学部・教授
研究者番号：20183022

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：歴史地理学，アイヌ，蝦夷地，狩猟採集民，集団の流動性

１．研究計画の概要

東蝦夷地三石場所のアイヌを対象として行ってきた集団の空間的流動性の程度の測定方法，集団の流動性と血縁親族関係の分析方法，紛争処理理論と血縁共住理論の分析方法を，三石場所以外の地域のアイヌに適用する。次に，定住性の高いアイヌの研究で用いた分析方法を移動性の高い狩猟採集社会であるサン，オロチョンなどに適用する。そして集団の空間的流動性の程度，定住性（移動性）の程度，集落内居住者間の血縁親族関係の程度，空間占拠の社会的平等性などについて比較考察する。

２．研究の進捗状況

（１）三石場所のアイヌを対象として，定住性の程度，空間的流動性の程度，集落の血縁率の関係について分析した。集団の空間的流動性の程度は必ずしも定住性や血縁率とは関わりをもたないことが判った。

（２）三石場所のアイヌ，紋別場所のアイヌとオロチョンの空間的流動性の程度を比較し、遊牧民としての性格をも有する移動性の高いオロチョンのほうが集団の空間的流動性は高いことが判った。移動する家どうしが結合して形成されるオロチョンの集落，移動する家と定住する家の組み合わせで形成される三石場所のアイヌの集落，定住する家どうしで形成される紋別場所のアイヌ集落の順に，集団の空間的流動性の程度は低くなると考えられることを示した。

（３）三石場所のアイヌを対象として，集落が分裂するときと結合するときに分けて，空間占拠の社会的平等性に関する分析を行った。その結果，世界の狩猟採集社会のなかでは定住性の高いアイヌ社会においても全体的には空間占拠の社会的平等性は高かった。しかし集団の空間的流動性が生じて，集落が分裂・結合した場合には，空間占拠の平等性は低い傾向があった。空間占拠に関してより優位な立場にあると判断される家は，必ずしも有力者の家ではなく，家の系譜のうえでとくに古い家でもなかった。

（４）三石場所のアイヌ集落の分析によって，集団の空間的流動性には血縁共住機能が備わっていると考えられることが判った。集落の血縁率は，集団の空間的流動性によって変動しながらも比較的に高い値を維持していた。「血縁から地縁へ」という変化は，集落というレベルでは空間的流動性によって生じない可能性がある。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

三石場所のアイヌについては当初の計画に沿うかたちで研究は進展しており，空間占拠の平等性，血縁と地縁という当初は予定していなかった研究テーマも新たに見いだされ分析が進んでいる。集団の空間的流動性の程度の測定については，三石場所のアイヌと紋別場所のアイヌ，オロチョンの分析を行った。しかし，アイヌ社会の他の地域の事例およびサンの事例の分析がまだ進んでいない。従って，全体的にはおおむね順調に進展していると思われる。

４．今後の研究の推進方策

三石場所のアイヌを対象としてさらに様々な分析を行うこと，およびアイヌ社会の

他の事例，サンの事例に関する分析にできるだけ早く取りかかる必要がある。まず，移動性の高い狩猟採集民として有名なサンの事例をとりあげ，分析を始めたい。すでに流動性の程度を分析したオロチョンとの比較も含めて，移動性の高い狩猟採集民の事例をさらに深く分析してみる必要がある。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 遠藤匡俊・張　政，狩猟採集社会における集団の空間的流動性の測定に関する一試論－アイヌとオロチョンの比較－，季刊地理学，６３，１７－２７，２０１１，査読有り。
② ENDO Masatoshi, Sustainable blood kin relationships among settlement dwellers through fluid residential groupings of the Ainu as hunter-gatherers in the Mitsuishi district of Hokkaido, Japan, 1856-1869, Proceedings of the 14th International Conference of Historical Geographers, 60-61, 2010, 査読有り
③ 遠藤匡俊，アイヌの定住期間からみた集団の空間的流動性―１８５６～１８６９年の東蝦夷地三石場所を例に―，季刊地理学，６１，１９－３７，２００９，査読有り。
④ 遠藤匡俊，１８２５（文政８）年の西蝦夷地古宇（フルウ）場所におけるアイヌの家構成員の人口構成と命名規則の空間的適用範囲，岩手大学文化論叢，７・８，７５－９２，２００９，査読無し。

〔学会発表〕（計３件）

① 遠藤匡俊，アイヌ集落の空間的流動性と空間占拠の平等性―東蝦夷地三石場所を例に―，東北地理学会，２０１０年９月１８日，北海学園大学，札幌。
② 遠藤匡俊，アイヌ集落の分裂時における空間占拠の平等性―東蝦夷地三石場所を例に―，歴史地理学会，２００９年９月１９日，神戸大学，神戸。
③ ENDO Masatoshi, Sustainable blood kin relationships among settlement dwellers through fluid residential groupings of the Ainu as hunter-gatherers in the Mitsuishi district of Hokkaido, Japan, 1856-1869, International Conference of Historical Geographers, 2009.8.23 ～ 8.27, Kyoto University, Kyoto, Japan.